

あおぞら

2012 5月号

この広報誌は、田園調布中央病院と患者さまが一体となって、病気やけがと闘うために少しでもお役に立てるよう、スタッフ一同が心をこめて皆さまへお送りする情報誌です。

今月の TOPICS

- 患者さんの体にやさしい盲腸手術
- 内視鏡検査を受けに行こう

外科医師 鈴木 直人
内視鏡室



- 内科:**(一般・リウマチ・膠原病・呼吸器・消化器)
- 外科:**(一般・消化器・呼吸器外科・肛門 内視鏡外科)
- 小児科:**(一般・感染症・アレルギー・予防接種・育児相談)
- 整形外科:**(一般・骨折・各関節痛・ひざ・骨粗鬆症)
- 眼科:**(一般・白内障・網膜剥離・緑内障)
- 泌尿器科・循環器内科・皮膚科・疼痛外来
- 形成外科・脳神経外科

医療法人社団七仁会
田園調布中央病院
〒145-0071



東京都大田区田園調布 2-43-1
TEL:03(3721)7121
田園調布中央病院ホームページ
<http://www.tmg.or.jp/denencyofu>

発行:田園調布中央病院 広報委員会

病院理念

支える医療を実践する

基本方針

- ・救急・急性期医療に全力で取り組む事で、命を支えます。
- ・地域の方々と共に地域医療へ貢献する事で、地域を支えます
- ・疾病の早期発見・予防に努める事で、健康を支えます

患者様の権利

当院では患者様の

1. 良質で公平な医療を受ける権利
2. 医師による説明を受ける権利
3. 医療を選択し自己決定する権利
4. プライバシーを尊重される権利
5. 事故情報の開示を求める権利
6. 個人情報を守る権利

患者様の権利を尊重し安全で良質な医療の提供を行うために患者様のご協力をお願いいたします。

● 患者さんの体にやさしい盲腸手術



外科医師 鈴木 直人

盲腸手術は、みなさんがよく知っている外科手術の一つです。周りの方でこの盲腸手術を受けたことのある人も多いと思います。虫垂炎は俗に「盲腸」と呼ばれていますが、「急性虫垂炎」が正しい呼び名です。誰でも虫垂炎にかかる可能性はありますが、一生涯にかかる確率は 7%前後といわれています。原因は細菌やウイルスによる感染や糞石(便の塊)などが考えられます。



(図1)

典型的な症状は最初のうちは上腹部が痛くなり、患者さんの多くは胃が痛いと感じます。そして徐々に右下腹部に痛みが移行するものが一般的です。ひどくなると、下腹部全体に痛みが広がり高熱も認められるようになります。この状態を腹膜炎といい、緊急手術の適応になります。非常に軽度な虫垂炎の場合には、「ちらす」すなわち、手術をせずに絶食・抗生剤治療にて軽快することもあります。しかしこの場合には、2人に1人は虫垂炎が再発する可能性があります。大事な時期に再発すると大変ですので、将来的に妊娠の可能性のある若い女性や、入試を控えた受験生には、一度「ちらした」後に炎症のない時期に手術を勧めています。一方、ある程度すすんだ虫垂炎の場合は手術が必要となります。当院ではこの虫垂炎手術に対して、平成 18 年から全例に腹腔鏡による手術をとりいれています。

当院外科は、この腹腔鏡手術を全例に行っている全国的にも数少ない施設の一つです。

腹腔鏡手術は従来の開腹手術と比べて技術を必要とします。炭酸ガスでお腹を膨らませて、「腹腔鏡」というカメラを使って、お腹の中をテレビ画面で観察しながら、数ヶ所の小さな穴(ポート)から長い器具(鉗子)を入れて手術をします(図1)。

お腹を大きく切ることがないため、手術のキズ(創)が小さくてすみます(図2)。手術後の回復も早く、結果的に入院期間も短くてすみます。



(図2)

虫垂炎手術特有の術後合併症として、腹腔内膿瘍があげられます。これは虫垂に穴が開き、腹膜炎になっている場合、術後にお腹の中に膿がたまる状態をいいます。炎症がひどいほど、この腹腔内膿瘍の確率が高くなります。この腹腔内膿瘍予防のため、当院では手術術式の工夫として全例に高速洗浄器による術中大容量洗浄を取り入れています(図3)。今までに 100 例以上、本術式を施行しましたが、腹腔内膿瘍は 1 例も認めず、患者さん達に非常に喜ばれております。



(図3)

当院外科では「患者さんにやさしい虫垂炎手術」に取り組んでおります。何か質問等がございましたら、お気軽に外科スタッフにご相談ください。

● 内視鏡検査を受けに行こう



内視鏡室

新緑の美しい季節となりました。新年度がスタートして1カ月、五月病という言葉もあるように、環境や生活パターンの変化により、心身の不調を感じている方も多いのではないかと思います。『最近食欲がない』『半年間で体重が数キロ痩せている』等、忙しさゆえ、ストレスゆえにと片付けてしまうことが通常で、なかなか病院まで足の向く方はいらっしゃらないでしょう。しかしながら、健康と病は背中合わせ。もう少し早く検査を受けて頂いていたら…とスタッフが心から残念に思うケースも少なくないのが事実です。



今年度も7月1日より、大田区の胃がん・大腸がん検診が始まります。

各種検査の中でも、印象の悪いNo.1はダントツで内視鏡検査です。

しかしながら、内視鏡検査ほど有益な検査はありません。内視鏡検査の本当の姿を理解し、悪いイメージを払拭して頂きたいと、心から願います。お腹の中を直接観察する内視鏡検査は、正確で信頼性の高い、役に立つ検査です。**世界的に増加傾向にあるガン**。これまで発生率の低かったアジア地域でも、伝統的な食習慣から欧米型の食習慣に移行するにつれ、増加が目立ってきました。特にここ**最近の日本での急激な増加**は気になるところです。気づかぬうちに体に巣くうガン、**ただ心配しているだけでは解決にはなりません。**

誰もが『自分はまだか』とってしまいがちですが、まさかは確実に起こりうることだと認識を改めることがまず一歩。そして初期には自覚症状がでにくいだけに、心がけたいのが定期検査です。精度の高い検査を定期的に受けることで、自覚症状がない初期のガンを発見することができます。胃や腸の内側を直接観察できる内視鏡検査は、何よりガンの早期発見につながり、さらに初期で発見された場合には、お腹を切る手術をせずに、内視鏡検査で悪い部分を切除することも可能なのです。精度が高く有益だとわかっていても、内視鏡から足を遠ざける原因は、検査の辛さでしょう。しかし心配は無用です。チューブの細さとしなやかさは飛躍的に改善されています。またわずかな異常もとらえるよう、患部を映し出す映像も高画質化が進み、食道や胃腸の粘膜の小さな変化にも鮮明に映し出されるため、初期症状の現れにくいガンの早期発見に役立ちます。様々な処置具も開発され、内視鏡検査のできる治療の可能性も大きく広がりをみせました。

当院では、最新のファイバースコープ・機器・処置具を保有しており、熟練した技術と豊富な知識をもつベテラン医師による検査が毎日行なわれております。看護スタッフは全員消化器内視鏡技師の専門資格を有し、ていねいで温かい看護と高い技術で患者様を支えています。

また鎮静剤・鎮痛剤の注射も希望でき、うとうとした状態・ぼーっとした状態で検査を受けることも可能です。考えていたよりもずっとずっと楽に検査を受けて頂けると思います。

内視鏡検査のご案内



まず初めに内科もしくは外科の診察を受けていただきます。

◆ 電話や受付窓口での内視鏡検査予約は出来ません
ご注意ください。



診察のときに医師が内視鏡検査の予約を入れ患者様に『予約票』をお渡しいたします。

◆ 検査の予約状況により患者様のご希望日に予約が取れない場合がございます。



診察のあと処置室で問診と感染症の検査のため採血をいたします。



呼吸器外科
院長 成瀬博昭



消化器外科
星野 光典



消化器外科
横山 登



消化器外科
富永 幸治



消化器内科
三木谷 孝誠



消化器外科
鈴木 直人



消化器内科
田崎 修平



消化器外科
福島 元彦

◆ 内視鏡検査は私たち専門医におまかせ下さい ◆

診療受付時間

受付時間：午前の部 8：00～12：00（小児科 11：30） 午後の部 8：00～16：30

診療時間：午前の部 9：00～

午後の部 14：00～

面会時間：11：00～20：00

◆ 診療科により受付・診察時間が異なる場合があります。

詳細につきましては、お気軽にお電話または受付までお問い合わせください。

◆ ご面会は他の患者様に迷惑のかからないよう、面会時間をお守りください。